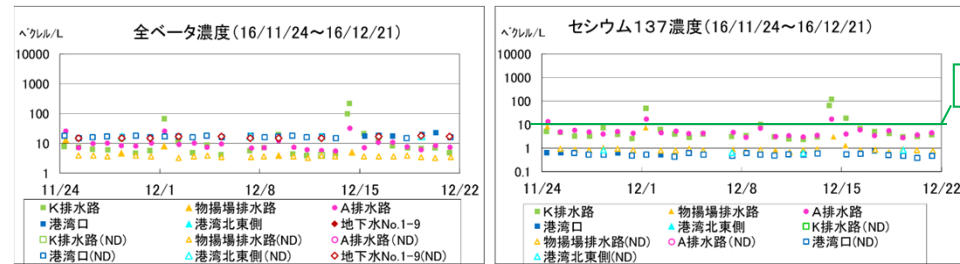


- 前回(11月24日)以降のデータ公開数は約7,500件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約7,500件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し(2015年10月5日)以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、本年9月13日より壁パネルの取外しを開始し、11月10日に最終18枚の取外しが完了し、オペフロ調査を実施しています。2号機では原子炉建屋周辺の路盤整備やオペレーティングフロアへのアクセス構台の設置工事、3号機では原子炉建屋オペレーティングフロアへの遮へい体設置工事を実施中です。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定
先月以降、降雨時に一時的なセシウム137濃度の上昇が見られる場合もあるものの、低い濃度を維持しています。なお、先月22日の地震にともなう津波によって、港湾内のシルトフェンスが一部損傷したものの、津波翌日の11月23日に、港湾内外の海水を採取し分析した結果、異常な値はみられていないことから、シルトフェンスが損傷したことによる外部への影響はないと考えています。1～4号機側のシルトフェンスは11月23日に、5・6号機側のシルトフェンスは11月24日に仮復旧を完了しており、今後、それぞれ本復旧をH29年1月中旬に実施する予定です。引き続き港湾内の水質を監視していきます。

A 水(海水、排水路、地下水等)

- K排水路では、降雨による、セシウム濃度、全濃度の一時的な上昇が発生。
- セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。

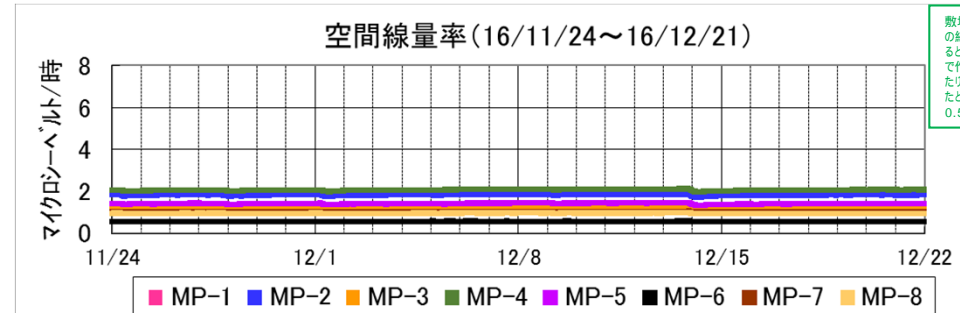
(地下水 1-9については全ベータ濃度で監視)



全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
(ND)は、不検出の意味で、グラフには検出下限値を記載。
12/6は悪天候のため欠測。

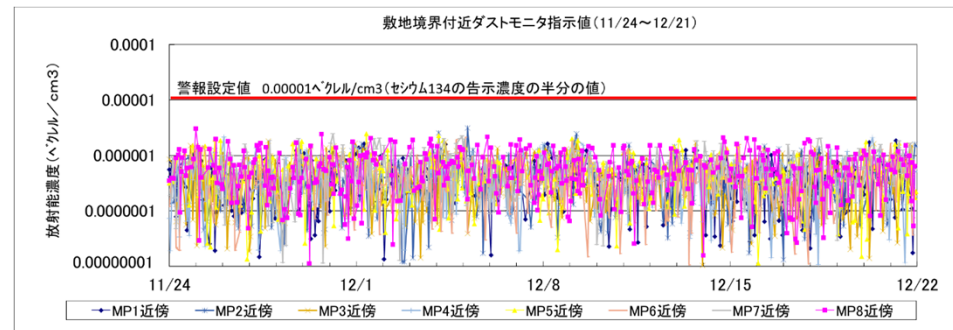
B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。

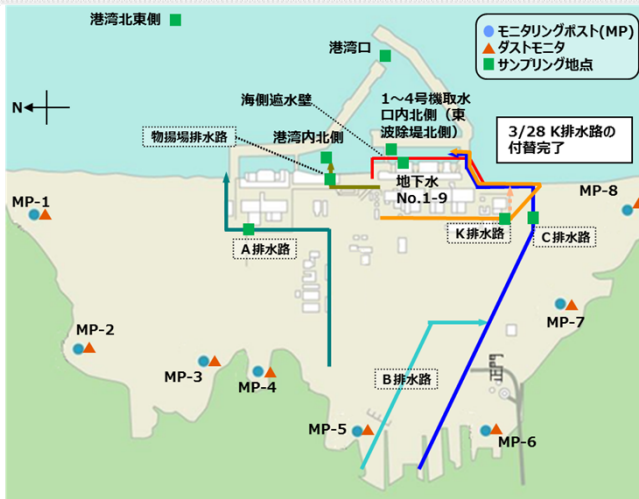
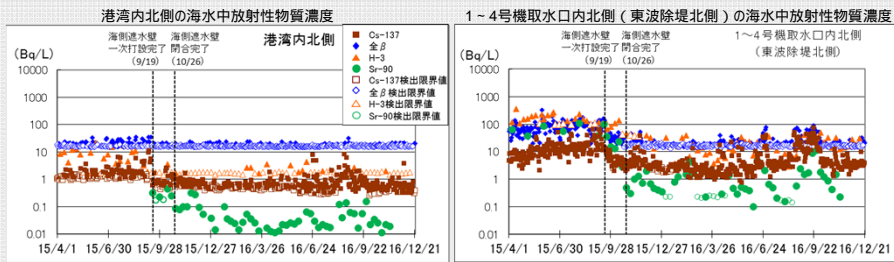


C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。



告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

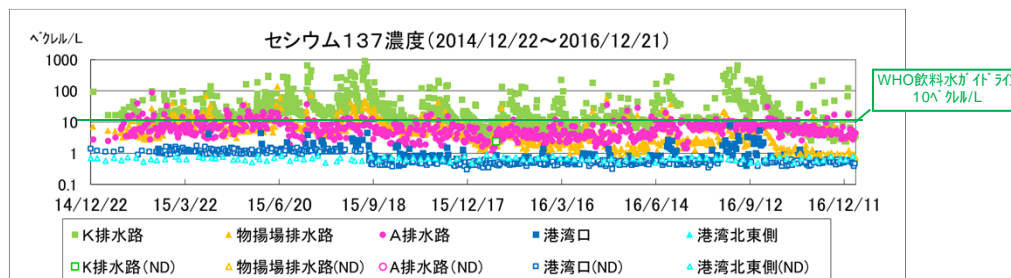
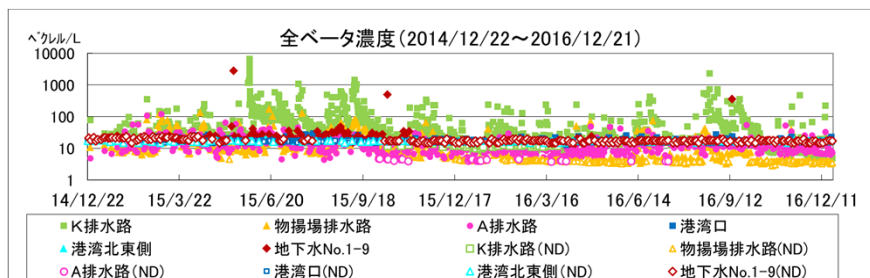


データ採取位置図(右のA、B、C等に対応するポイント)

放射線データの概要 過去の状況

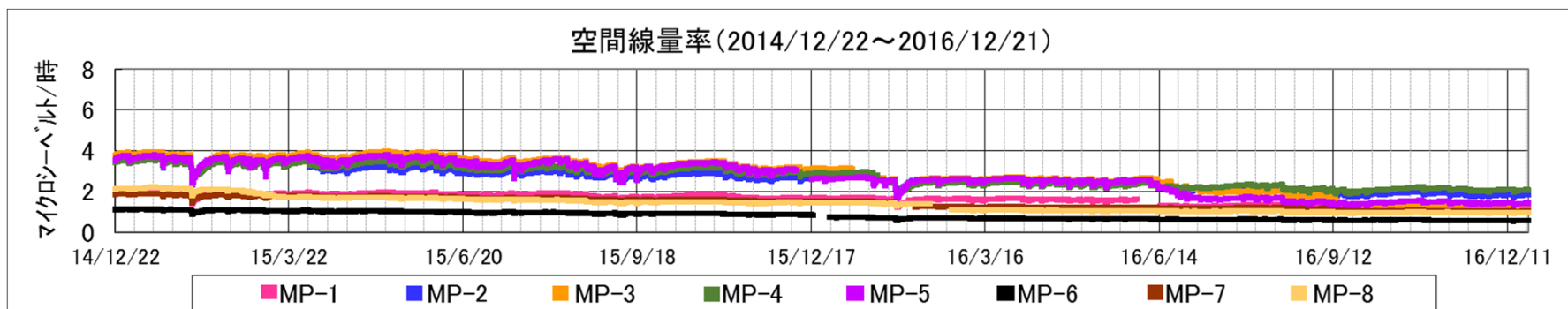
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路は比較的高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



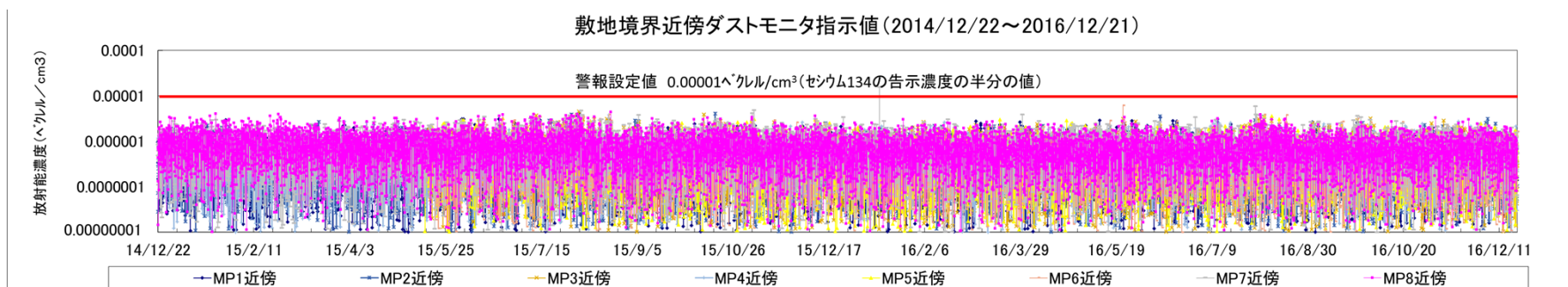
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



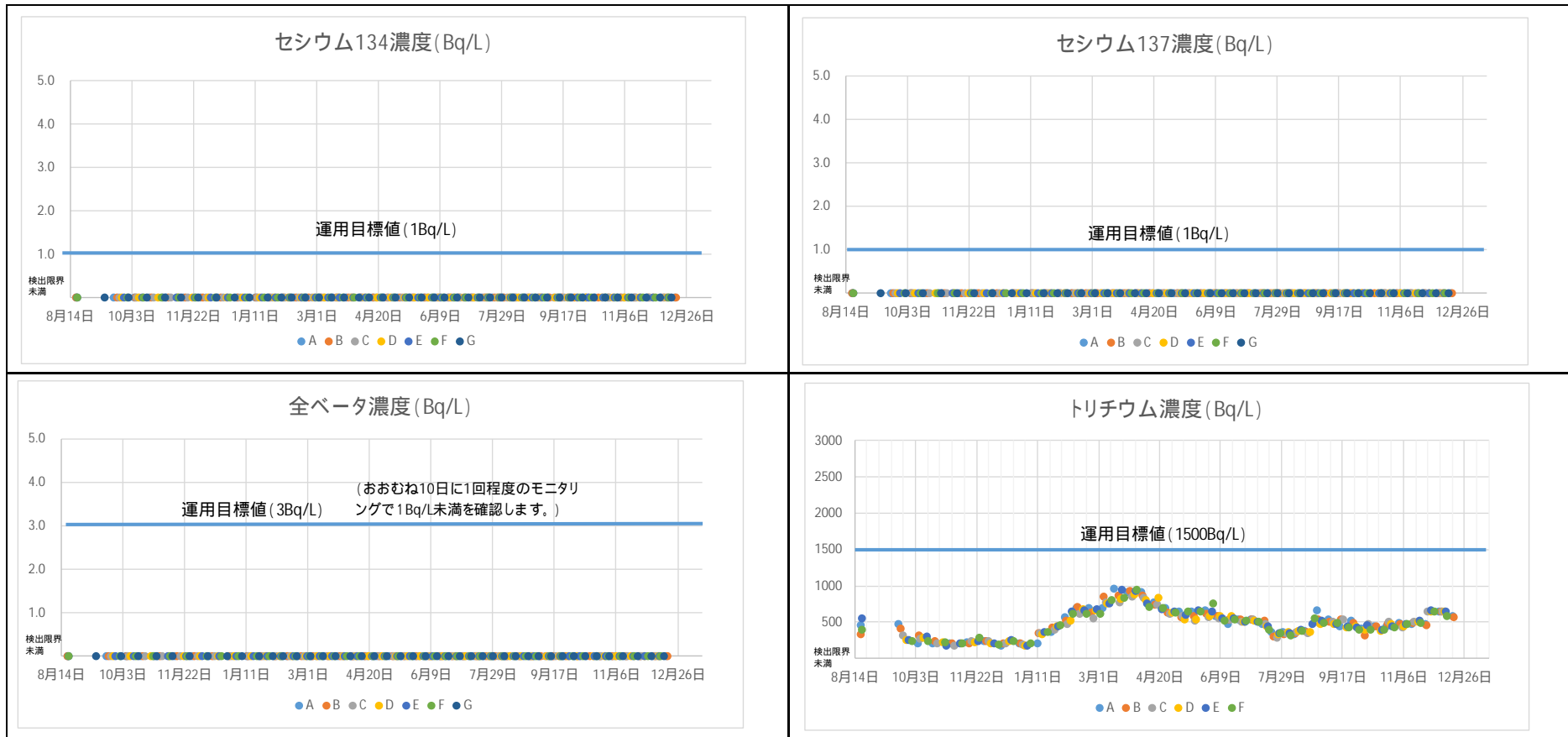
・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2016年12月20日までに合計297回、246,233m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。

3号機オペレーティングフロアへの遮蔽体設置による線量低減について

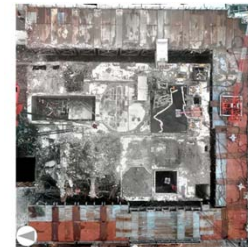
4月12日から実施している3号機オペレーティングフロアへの遮蔽体設置が12月2日に完了しました。遮蔽の効果は3号機周辺にも広がっています。今後、燃料取扱機を設置し、使用済燃料取り出しに向けて、安全最優先で作業を実施してまいります。

遮蔽体設置前後の敷地線量

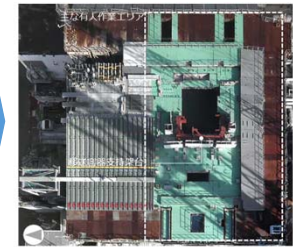
遮蔽体設置後、3号機オペレーティングフロアだけでなく、建屋周辺の線量も全体的に低減され、周辺での作業環境が大幅に改善されました。建屋周辺の低減率は6~7割に達するところもあり、大きいところでは、100 μ Sv/hを超える低減も確認できました。



3号機遮蔽体設置のようす

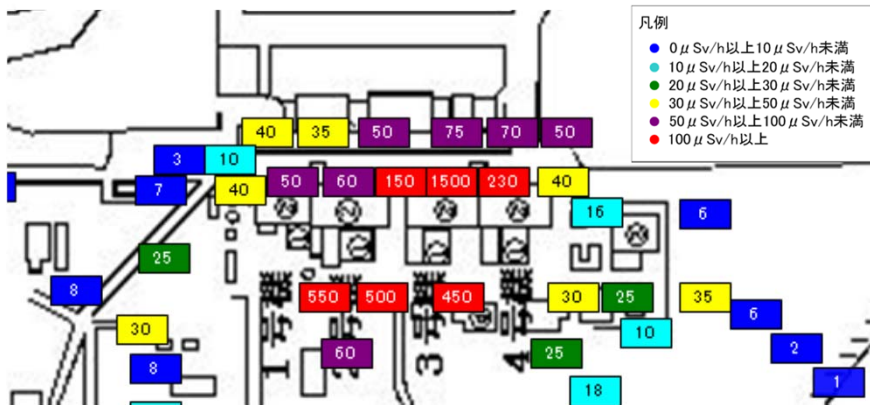


除染当初のオペフロ（撮影日2014年3月3日）

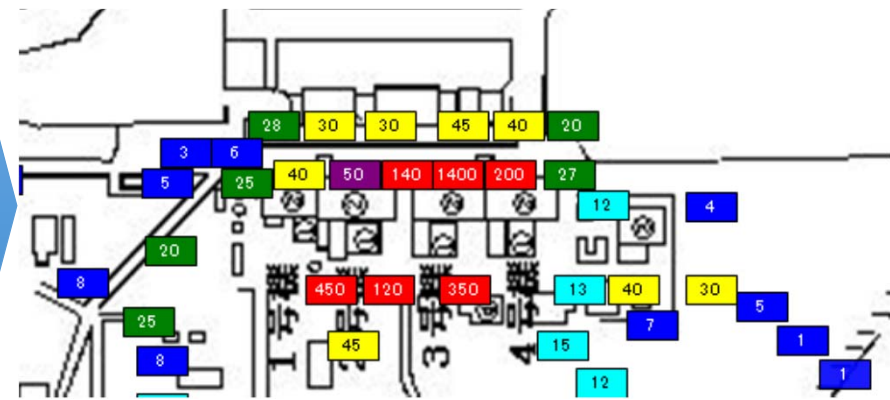


現在のオペフロ（撮影日2016年12月12日）

福島第一構内 サーベイマップ（2016年4月4.5日測定分）



福島第一構内 サーベイマップ（2016年12月9.12日測定分）

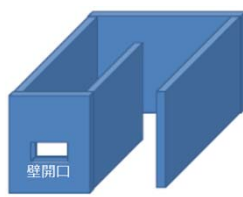


3号機オペフロ上の作業における被ばく低減対策

遮蔽体の設置によってオペフロ上の線量を低減しましたが、より一層の被ばく低減対策として、移送容器支持架台設置に際して仮設遮蔽体を使用しました。また、今後の燃料取扱機設置については、作業時間を短くするために小名浜ヤードにおいて組立訓練を実施しております。引き続き、作業される方の被ばくをできるかぎり低減するとともに安全最優先で作業を進めてまいります。

渦巻き形状の仮設遮蔽体

（渦巻き形状のイメージ）



衝立形状の仮設遮蔽体①



衝立形状の仮設遮蔽体②



仮設遮蔽体内部の線量 （測定日2016年11月14,15日）

- 渦巻形状の内部の線量 50 ~ 100 μ Sv/h
- 衝立形状 の内部の線量 200 ~ 800 μ Sv/h
- 衝立形状 の壁の反対側の線量 200 μ Sv/h